

『4月の主な動き』

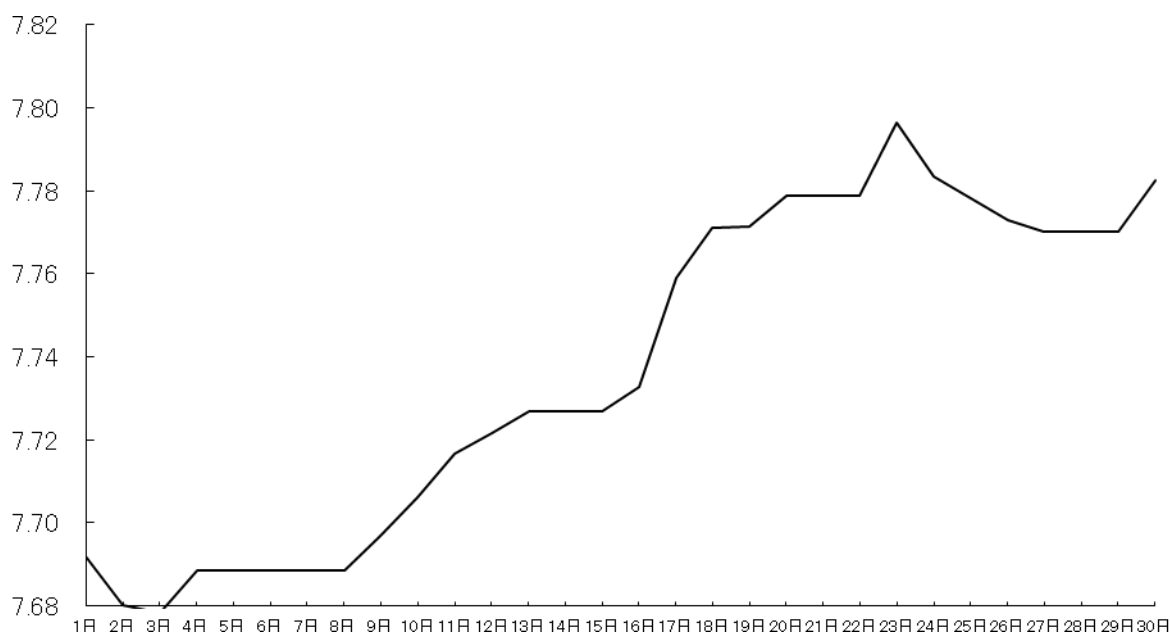
- 4月、対米ドル・ケツアル為替は1ドル=7.678~7.783の範囲で推移した。
- 4月、消費者物価指数は、対前月比0.37%、前年同月比では4.27%上昇した。
- 4月、外国からの送金額は前月に比べ上昇し、前年同月比12.84%増となった。
- 当國中銀は、2011年の当国の経済成長率に関し見直しを行い、3.9%に上方修正したと発表した。
- 中銀によれば、2011年の中国から当国への輸入総額が1,144百万ドルに上り、当国の第3位の輸入相手国となった。

1. 主な経済指標

(1) 為替レート（中銀）

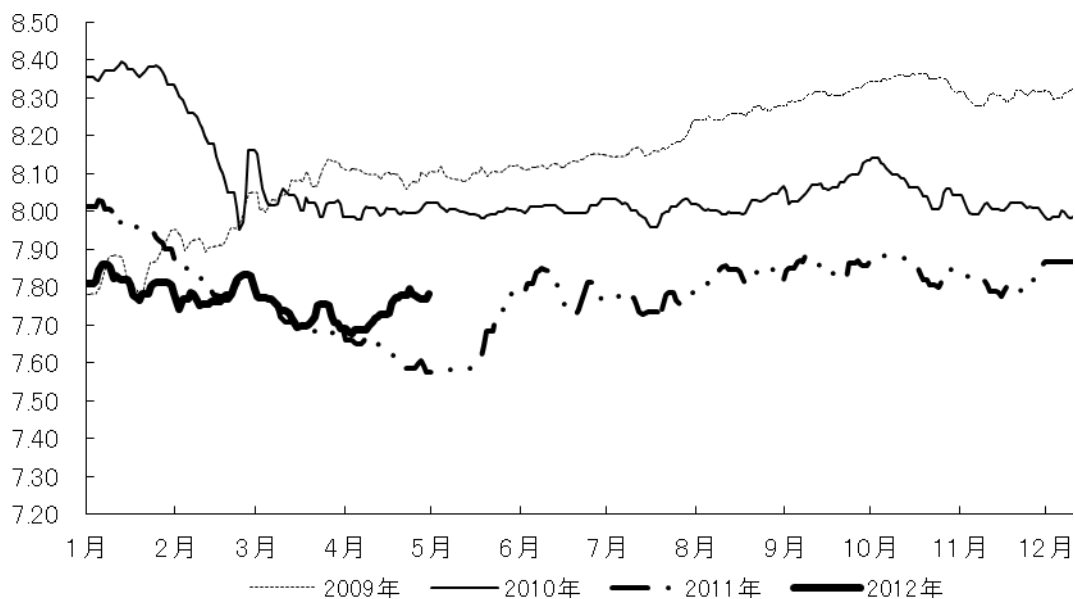
4月、ケツアルの対米ドル為替相場は、1ドル=7.678~7.783の範囲で推移した。4月30日時点の為替レートは同月初頭に比べ0.0907ケツアル安ドル高の1ドル=7.7826ケツアルであった。

ケツアル対ドル相場の推移：2012年4月



(出典：グアテマラ中央銀行)

ケツアル対ドル相場の推移：2009年-2012年

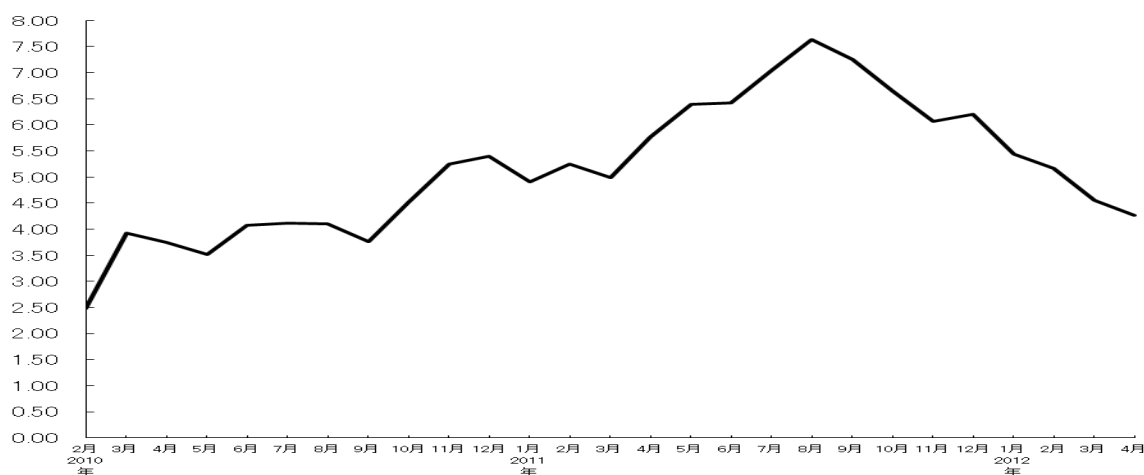


(出典：グアテマラ中央銀行)

(2) 消費者物価指数 (国立統計院)

4月、消費者物価指数は対前月比 0.37%、前年同月比 4.27%上昇した。

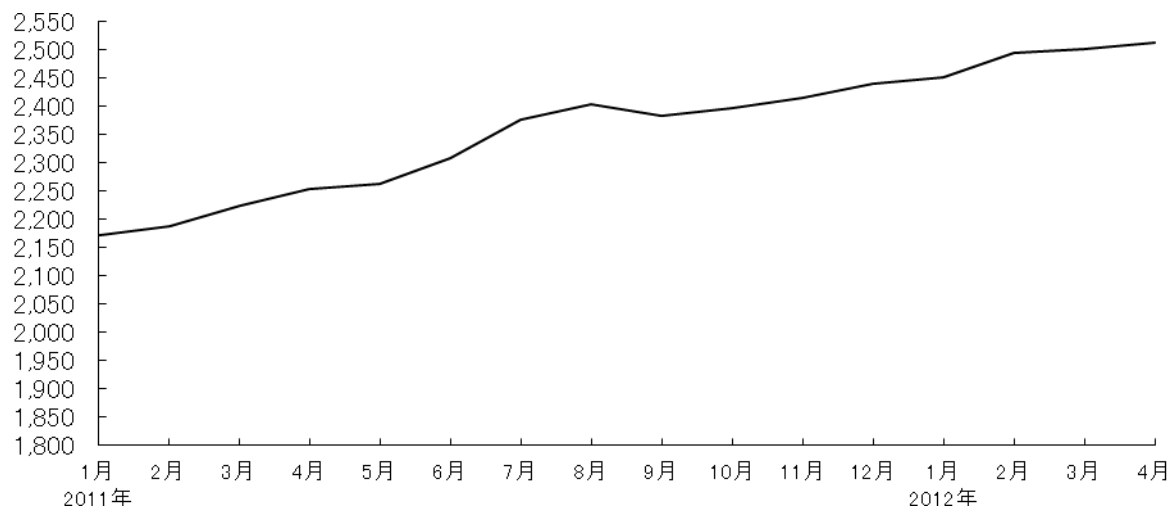
消費者物価変動率(対前年同月比:%)：2010-2012年



(出典：国立統計院)

基礎的食料品バスケット（Canasta Básica de Alimentos: 1世帯 5.38人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料 26品目）価格は、前月比 12.00 ケツアル増の 2,513.10 ケツアル/月となった。

基礎的食糧品バスケット価格：2011-2012年
(単位：ケツアル)



(出典：国立統計院)

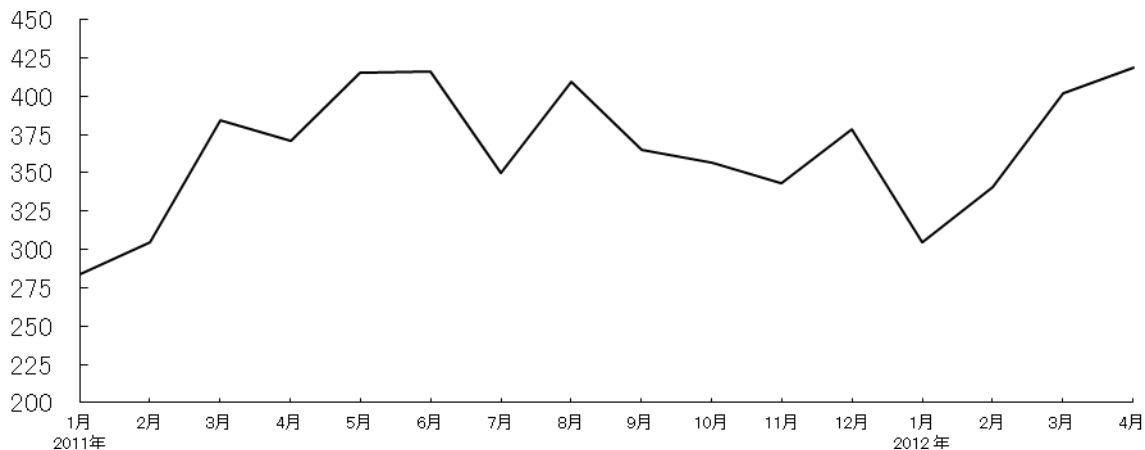
また、基礎的生活バスケット（Canasta Básica Vital: 基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの）の価格も、前月比 21.90 ケツアル増の 4,585.95 ケツアル/月となった。

(3) 外国からの送金（中銀）

4月、外国からの送金額は前月に比べ上昇し、前年同月比12.84%増の4億1,896万ドルとなった。

外国からの送金額：2011-2012年

(単位：百万米ドル)



(出典：グアテマラ中央銀行)

2. 国内経済トピックス

(1) 本年第1四半期の当国の税収

当国国税庁(SAT)は、本年第1四半期の当国の税収は総額114億ケツアルで対前年同期比6.8%増を記録したと発表した。なお、右税収の内訳は直接税が35億ケツアル、間接税が78億ケツアルとなっている。グティエレスSAT長官は、第2四半期の見通しに関し、グローバル経済が変動していることから、当国の税収にも影響が出ることが予想され、現在、検討し直していると述べた。

(2) 2011年及び2012年の当国の経済成長率

(ア) 当國中銀は、2011年の当国経済成長率を3.8%(昨年12月時点)から0.1ポイント上方修正し、3.9%(暫定値)とした。右成長上昇の背景として、輸出及び民間・政府消費が僅かながらも増加する一方、輸入品に対する国内需要の低下による輸入の落ち込みを挙げた。なお、中銀は昨年12月時点の見通しを維持し、本年の経済成長率を2.9~3.3%と見込んでいる。また、中銀によれば、2011年第4四半期の当国経済は、前年同時期と比較し、製造業、商業(卸・小売り)及びサービスにおいて減速を記録した一方、農業、鉱業・採石、交通・通信において力強さが見られた。

(イ) 中銀は、2010年の当国の一人当たり GDP が 23,194.5 ケツアルに達したと発表した。中銀によれば、2010年には世界経済金融危機の影響により、一人当たり GDP 成長率が 1.6%まで落ち込んだが、2007年及び2008年に各々11%及び10%の成長を記録しており、2011年の同成長率も7%と見込まれている

(ウ) IMFは本年の当国の経済成長率に関し見直しを行い、3.1%と発表した。2011年の経済成長率よりも低い見通しとなった理由として、IMF は、米国経済の活力が失われていることから、対米向けの輸出が減少する一方、在米グアテマラ人の当国への海外送金が減少し、米国から当国への輸入も影響を受ける可能性が高いと述べている。

(3) EU 経済危機の当国への影響

当国財務省は、EU の経済危機の当国における影響に関する報告書を発表した。同報告書によると、資本の流出を避けるために為替レートと利子率の上昇を引き起こす等、主に金融部門に影響を与える可能性が高いとしている。また、対外貿易、当国への海外送金も減少も懸念されている他、EU 地域からの当国への観光客も対前年比 10%減と見込まれている。

3. 対外経済トピックス

(1) 対中国との貿易関係

(ア) 中銀によれば、2011年の中国から当国への輸入総額が 1,144 百万ドルに上り、当国の第3位の輸入相手国となった(第1位は米国で 6,507.8 百万ドル、2位はメキシコで 1,858.9 百万ドル)。なお、中国からの主な輸入品は家電製品、電話、音響再生用機器、靴、繊維製品及び自動車等。一方、当国から中国への主な輸出品はコーヒー、砂糖、エビ、木材・プラスチック製品等であり、2011年の中国への輸出総額は 28.8 百万ドル。

(イ) バルノヤ中国グアテマラ通商協力会議所(Camara de Cooperacion y Comercio China-Guatemala)代表は、同会議所が有するデータでは中国からの輸入は中銀の数値の3倍に上っており、今後更に中国からの輸入が増える旨、また、米国に中国製品を輸入する会社があり、その会社が当国を含む第3国に再輸出を行っている旨述べた。デ・ラ・トーレ経済大臣は、アジア地域に通商事務所を開設し、同事務所を通じたグアテマラと中国の通商関係の促進を図ると共に、中国グアテマラ通商協力会議所の活動を支援していく旨述べた。

(2) 当国におけるカルダモンの生産量の上昇

リベラ・グアテマラ・カルダモン輸出協会代表は、当国のカルダモンの生産量が年間 28,000 トンに達し、インド、パプア・ニューギニア等の伝統的な同生産・輸出国を上回っていると発表した。なお、カルダモンの主な消費国は、サウジアラビア、シンガポール、リビア、ドイツ、クウェート、パキスタン、ヨルダン及びエジプト等。

(3) 2011年の当国における外国直接投資

当國中銀は、2011年の当国における外国直接投資は総額 910.8 百万ドルで対前年（805.8 百万ドル）比 13%増となったと発表した。なお、2012年の同投資額は 900 百万ドルを超えると見込まれている。

（４）インドネシアと当国の貿易・投資関係の強化

Hamadani Djafar 駐グアテマラ・インドネシア大使は、経済省の関係機関を訪問し、インドネシアが当国との貿易の強化及び両国における新たなビジネス機会の模索に高い関心を示していると述べた。同大使によれば、インドネシアの輸出において、対ラテンアメリカ向け輸出は全体の僅か 2.3%を占めるに留まり、主にガラスの他にゴム等のオイルクロス製品の輸出を通じて、両国の貿易関係を強化していきたいと述べた。

（５）第 21 回ラテンアメリカ港湾会議の開催

10日から当国で第21回ラテンアメリカ港湾会議が開催された。同会議はラテンアメリカ港湾協会により主催され、ラテンアメリカ諸国の港湾当局関係者が出席した。同会議では、先進国の国際貿易の基本となる、ポスト・パナマックス船に対応できるような港としての機能を備える港湾インフラ整備の必要性等について協議された。

（６）タックスヘイブン・ブラックリスト

12日、フランス政府は、国際的に合意された租税基準の実施を約束したが、まだ実施されていない国として、タックスヘイブン・ブラックリストに引き続きグアテマラを含めると発表した。なお、同リストには、ブルネイ、マーシャル諸島、モントセラト、ナウル及びフィリピン等が載っている。なお、ベリーズ、コスタリカ及びパナマが以前は同リストに含まれていたが、既に同リストから脱退するに至っている。

（了）